

<先週の説教から>

『詩編⑭—『神などない』と言う人』

詩編 14:1~7 ローマの信徒への手紙 3:9~12, 21~24

ご存知の通り、旧約聖書はユダヤ教でも正典とされていますので、同じ聖書の箇所でも随分、読み方が異なる場合があります。この詩編14編はまさにユダヤ教とキリスト教では大きくその解釈が違っています。その解釈の鍵となるのが7節の言葉です。キリスト教が始まる前の数世紀は、ほとんどヘブライ語が話されなくなり、ユダヤ教では旧約聖書のギリシア語訳である『70人訳聖書(セブチアギンタ、BC250年頃完成)』がよく読まれていました。そこでは7節が「捕らわれ人を連れ帰られる時に」と訳されていました。明らかに《捕囚(=バビロン捕囚)》のことが考えられていると採られて訳されたのです。ユダヤ教の人たちはこの14編全体を、自分たちを迫害し支配しようとする他の民族=異邦人たちへの告発として読んで来たのでした。故に1節の「神を知らぬ者は言う『神などない』と」は異邦人のことであり、彼らが4節「パンを食らうかのようにわたしの民を食らう」と。しかし6節「貧しい人(=自分たち)の計らいをお前たちが挫折させても、主は必ず救って時が来ると。それが7節「イスラエルの救いがシオン(=エルサレムの都が建つ丘)から起こる」のだと読まれて来ました。まさに後代のシオンの丘の高揚(=シオニズム)につながるのです。

キリスト教が始まり、旧約聖書も原典から翻訳するようになると、先ほどの「捕らわれ人を連れ帰られる時に」の原語は《シューブ シェブート》であり、意味は(元の状態に戻す、良い状態へと転換する)で、故に口語訳聖書も「主がその民の繁栄を回復される時」と訳されていました。最近の翻訳は英語も含めてほとんど同様の訳になっています。ここには捕囚とか奴隷などの意味は含まれていないのです。

むしろ、新共同訳聖書が敢えて昔の訳「捕らわれ人を連れ帰られる時に」に戻したと言います。この点は想像ですがありませんが、カトリック教会が長い間使用していたラテン語訳聖書(=ウルガータ)では、上記の『70人訳聖書』を参考にして訳されていたため「捕らわれ人を連れ帰られる時に」という言葉が残っていました。新共同訳はカトリッ

クとプロテスタントの共同訳であるという点が影響を与えたのではないかと思います。・定かではありません。

いずれにしても、キリスト教では、本日読みましたローマの信徒への手紙3章10節において、伝道者パウロが、この詩編を引用して「ユダヤ人もギリシア人も皆、罪の下にある」ことを論証しているのと同じように、ここは、私たちも持っている「罪」が問題にされていると受け取って来ました。

実際に1節は『神などない』と「心に言う」者とあります。口に出しては、公けには言わないとも読めます。確かに、私たちでも、苦しいことや悲惨な事が続くと『神も仏もない』とついつい心の中で思ってしまうのではないのでしょうか？人間の愚かさでしょう。続く2節で「主は天から人の子らを見渡し(目覚めている人を)探される」けれども、3節「皆ともに、汚れている。善を行う者はいない」という有り様こそ、パウロが言うように人間の真の罪ある姿でしょう。しかし、だからこそイエス様は自らこの世に降ってくださったのではないのでしょうか。私たちの持つ罪を十字架の上で引き受けてくださり、自らの命を犠牲としてその罪をすべて贖ってくださったのではないのでしょうか！

アウグスティヌスは7節に対して「だれがイスラエルにシオンから救いを与えるのか？」と問いかけ、それはキリストだけだとして「イエス様が新しいイスラエルの民を回復される」と答えています。まさに、イエス様が十字架に架かってくださったことにより、私たちが本来与えられていた神様とのふさわしい関係を取り戻して下さったのです。それこそが7節の《シューブ シェブート=もともとの良い状態へと戻して下さる》「主がその民の繁栄を回復される時」だったのではないのでしょうか。それ故、私たちこそ心から「喜び躍り、喜び祝う(=礼拝する)」のです。

私は今回、この14編から特に5節の「神は従う人々の群れにいます」という言葉に心を動かされました。まさにイエス様が私たちに約束して下さった「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」(マタイ18:20)の言葉通りです。『神などない』と言っている者に対して、『いや、神様は私たちの間におられる』と答えていく者でありたい！

No. 62-6

週報

2020年度 教会標語

「生活の真ん中に礼拝する心を！」

2021年 2月 7日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>